



## Q 小学校プールの利用状況と今後は

A 教育長

屋内プールの利用を検討する。

【Q 1】  
最近の小学校プールの維持費等の現状は。

【A 1】  
光熱水費、ろ過機の点検業務等で年間約500万円の経費が掛かっている。また、夏休み中のプール開放では令和5年度が約200万円、6年度は約350万円で、主に監視業務の委託費であり、年々高騰傾向にある。

【Q 2】  
令和6年の夏休み期間中のプール開放状況と利用人数は。

【A 2】  
第一、第四小学校は7月25日から7日間、第二、第三小学校は7月22日から10日間開放し、延べ3,253人の児童が利用した。

【Q 3】  
温暖化と炎天下でのプール開放は維持費、健康面を考えると限界に来ているではないか。

【A 3】  
近年の夏は異常な気象状況であり、熱中症警戒アラートにより中止になるケースもあり、プール開放が困難な状況になってきている。

【Q 4】  
健康面等、様々な要因を考慮し、民間施設のプールを利用できないか。

【A 4】  
天候に左右されないことと、熱中症のリスクが軽減される民間施設の屋内プールの利用を今後検討することとしている。



## Q 高齢者に対する支援について町の考えを問う

A 町長

「誰もが元気で健やかに暮らせるまち」の実現に向け、取り組んでいく。

【Q 1】  
給付金の案内などは確実に必要とされる方々に届いているか。

【A 1】  
本年度の低所得者支援での給付率は96%だった。外部の方の協力も得ながら声掛けに努めたい。

【Q 2】  
詐欺電話などが心配な世の中で知らない番号からの電話には出ない高齢者も多い。対策は。

【A 2】  
役場の窓口や訪問の際に高齢者の方や家族に高齢者支援課、包括支援センターの番号を携帯電話等に登録してもらうようお願いをしている。

【Q 3】  
行政からの案内は文字が小さく読みづらい。A3サイズに拡大して送付してはどうか。

【A 3】  
システム変更が必要で、郵送料の問題もありすぐの対応は難しい。

【Q 4】  
高齢者への案内は別居のご家族にSNSなどでの通知を同時にしてはどうか。

【A 4】  
個人への通知は行っていない。HPをご覧くださいなどし、支援についてお願いしたい。

【Q 5】  
窓口対応など職員の育成に努めているか。

【A 5】  
接遇研修、認知症サポーター育成講座などで配慮事項を学び接遇に生かしていきたい。

## Q 町内一斉清掃、川掃除後の川の中に残った草の処理は

A 町長

景観的な対応までは難しいが、<sup>しゅんせつ</sup>浚渫する場合は、一緒に草も撤去していく。

【Q 1】  
町内一斉清掃、川掃除が最近の異常気象で無理のない清掃に変わってきている。そのため川の中に草が残っている箇所が多く見られる。川の底に溜まる堆積土を乗り除く(浚渫)の時、川の中の草は取り除くことができるが、のり面の草の処理はどうするのか。県から補助金等が出ているのではないか。

【A 1】  
県からは清掃等を行うボランティア団体を支援するための補助金があり、町内一斉清掃の財源の一部にしている。

【Q 2】  
これから町内一斉清掃が川に入らない清掃になってくると予測される。今後の川の掃除はどのように考えているか。

【A 2】  
県において試行されている河川の樹木伐採の取り組みを注視するとともに他市町の取り組みを研究していく。



▲町内一斉清掃の様子

## Q 重度の障がい者の方への避難支援は

A 町長

熊野町地域防災計画において災害時要配慮者に対する体制の構築に努める。

【Q 1】  
避難所に体重15～30キロ用のおむつは備蓄しているか。

【A 1】  
指摘のサイズはないので今後備蓄していく。

【Q 2】  
避難所の多目的トイレにユニバーサルシート(折りたたみ式大型ベッド)がない。設置はできないか。

【A 2】  
ある程度の広さが必要なため整備済の施設に設置は難しいが、利用者などからの要望・ニーズを踏まえ、工夫して対応する。

【Q 3】  
人口呼吸器等、電源が必要な方は災害時停電が起これば命にかかわる問題が発生する。

避難所に障がい者専用の非常用自家発電機の備えはあるか。

【A 3】  
障がい者専用のものはないが、人口呼吸など生命にかかわる場合は優先的な使用を想定している。今後、使用実態等を確認しながら、必要な台数を確認していく。

【Q 4】  
自宅避難している方も停電になれば自宅で使う発電機の備えが必要となる。非常用自家発電機購入のために補助金制度はつくれないか。

【A 4】  
今後、他市町の動向を注視していく。

